

2017 年度 事業報告書

NPO 法人ゆいツール開発工房^{ラ ボ}

目 次

1.	団体の設立趣旨	1
2.	団体の目的と主な事業	2
3.	団体の役員	2
4.	会計報告	2
5.	活動報告	4

1. 団体の設立趣旨

つながりあう社会へ

私たちは今、高度な効率化・情報化がすすんだ、便利な社会に暮らしています。

しかしその裏で、人と人の繋がりは薄れ、深い孤独感が蔓延し、地域コミュニティが崩壊するなど、社会の問題も深刻化しています。

世界では、これまで貧しいと言われていた国々が急激に発展し、豊かさを享受する人が増える一方で、開発による環境破壊、貧困格差、エネルギー・資源をめぐる問題など、多くの深刻な事態も表面化しています。

そんな中起きた東日本大震災と原発事故は、私たちにコミュニティの大切さとその危機を痛感させました。

今、こうした数多の問題を抱える社会を生きていくためには、多様な情報や選択肢から、自ら考え、選び、行動する力を一人一人が身につけることが肝要です。しかし過剰な情報や便利すぎる社会はその力を奪い、生きる力を弱めています。

ゆいツール開発工房^{ラボ}の主メンバーは、環境省の体験的な学びの場づくりに6年以上携わってきました。その現場経験の中で、市民の手による課題解決の必要性和、コミュニケーションによる学び合いの可能性を見い出しました。

人と人の関わり合いや繋がりが、社会の中で損なわれつつある「絆」や「生きる力」「生きる知恵」を取り戻す鍵ではないかと考えます。

そこで、「NPO法人ゆいツール開発工房^{ラボ}」を設立し、人と人の結びつきを生み出す道具やしくみ（ゆいツール）を開発することで、社会の中にコミュニケーションや学びの機会を増やし、地域でさまざまな人たちがともに学び合う基盤づくり、持続的に活動展開できる環境づくりなどをサポートし、持続可能でいきいきとした地域コミュニティづくりのお手伝いをしていきたいと思っています。

2. 団体の目的と主な事業

ゆいツール開発工房は、広く日本や世界の人々に対して、ESD（持続発展教育）プログラム開発をはじめとした教育活動事業等を行うことで、社会の中に世代や立場を越えたコミュニケーションや学び合いの機会を創出し、地域コミュニティの持つ課題（環境破壊、少子高齢化、地域文化の衰退など）の解決や、持続可能な社会構築に寄与することを目的とする。

- (1) ESD（持続発展教育）に関わるプログラム開発事業
- (2) ESD（持続発展教育）に関わる人材育成事業
- (3) ESD（持続発展教育）の社会展開のための事業
- (4) 教育活動、地域活性化事業等を行う他の団体との情報交換及びネットワークの構築事業

【過去の主な事業】

- ・インドネシア・ロンボク島における環境保全のための ESD プログラム開発・人材育成事業
(2013年度～2015年度)
- ・インドネシア・スマトラ島の森林保全をテーマとした ESD プログラムの開発
(2012年度～2015年度)

3. 団体の役員

ゆいツール開発工房は、以下の役員によって運営されている。

理事長	山本 かおり	
副理事長	小嵐 妙	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事	松原 裕子	有限会社イリュージョンミル代表取締役
理事	松原 雅裕	デジタルリウムプロジェクト！主宰
理事	森 高一	森企画
監事	小山 庄三	

4. 会計報告（2018年5月現在案）

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房 貸借対照表(2017年3月31日現在)

（単位：円）

(資産の部)		(負債の部)	
預金	597,379	仮受金	164,807
未収金	10,000		
		(正味財産の部)	
		一般正味財産	442,572
資産合計	607,379	負債・正味財産合計	607,379

2017年度 特定非営利活動に係る事業 活動計算書
2017年4月1日から2018年3月31日まで

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 会費・入金収入			
会費・入金収入			
会費収入(正会員)	95,000		
会費収入(賛助会員)	30,000	125,000	
2 事業収益			
①ESD に関わるプログラム開発事業	1,593,709		
②ESD に関わる人材育成事業	955,709		
③ESD の社会展開のための事業	573,299	3,122,717	
3 寄付金収入			
寄付金	40,000	40,000	
4 その他収益			
利息	8		
雑収入	0	8	
経常収益計			3,287,725
II 経常費用			
①ESD に関わるプログラム開発事業			
(1)人件費	532,675		
(2)その他経費	1,087,050	1,619,725	
②ESD に関わる人材育成事業			
(1)人件費	0		
(2)その他経費	1,066,904	1,066,904	
③ESD の社会展開のための事業			
(1)人件費	50,000		
(2)その他経費	426,973	476,973	
雑費	65,353	65,353	
経常費用計			3,228,954
当期経常利益額			58,771
当期正味財産増減額			58,771
前期繰越正味財産額			442,572
次期繰越正味財産額			501,343

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房 ^{ラボ} 貸借対照表（2018年3月31日現在）

（単位：円）

（資産の部）		（負債の部）	
預金	272,496	仮受金	6,291
未収金（会費関係）	15,000	未払い金	12,571
未収金（助成金関係）	227,709		
未収金（寄付）	5,000	（正味財産の部）	
		一般正味財産	501,343
資産合計	520,205	負債・正味財産合計	520,205

貸借対照表脚注

- ・未収金 15,000 円は会費に関わるもので、10,000 円は 5 月 17 日に回収済、5,000 円は 7 月 2 日に回収予定。
- ・未収金 227,709 円は②人材育成事業に関わるもの（残りの助成金）で、5 月 31 日頃に清算予定。
- ・未収金 5,000 円は寄付に関わるもので、7 月 2 日回収予定。
- ・仮受金 6,291 円は、①プログラム開発事業に関わるもの（使用しなかった助成金）で、6 月に返金予定。
- ・未払い金の内 10,749 円は、4 月 2 日に支払い済である。1,822 円は 5 月 1 日に支払い済である。

5. 活動報告

（1）インドネシア・ロンボク島における村ツーリズム開発プログラム

～住民への環境教育、ごみ銀行の発展と若者の人材育成とともに～

公益信託地球環境日本基金と国際交流基金（アジア・市民交流助成プログラム）の助成を受けて、昨年度より引き続きインドネシア・ロンボク島での活動を以下のとおり行った。（より詳しい報告については、別紙の地球環境日本基金報告書と国際交流基金報告書のとおり）

① 村の若者へのワークショップ

1 回目（ランタン村）

2017年7月15日（土） / 32名
昨年度のワークショップの成果を共有後、「ごみについて考えるプログラム体験」、ごみ問題についていくつかの投げかけ、村のごみ問題についてグループで話し合い、共有。ツーリズムチームへの誘い。

2 回目（ランタン村）

2017年7月18日（火） / 40名以上
12月のツアーに向けた準備として実施。グループワーク「お客さんが来る前に何を準備する必要があるか？」「村のごみを減らしたり、ごみを片付けたりすることは可能か？どんな方法か？」など。共有。

写真1



WS 1 回目（プログラム実施）

写真2



WS 1 回目（グループワーク）

写真3



WS 2回目（グループワーク）

写真4



WS 2回目（共有）オパン

【コメント】

ランタン村での2回のワークショップを通して、ツーリズムチームを結成するつもりだったが、10月に現地に行った時には状況が変わっていたため、結局やる気のありそうな若者（写真4のオパン）をスカウトして12月のツアー実施に備えた。結果的に、それが功を奏した。

② 村ツーリズムを紹介するパンフレットの製作（インドネシア語）

2月のフォーラムに向けて、インドネシア人向けに村ツーリズムを紹介するためのパンフレットづくりを行った。中部ロンボク県マスマス村のハビブさんや、西ロンボク観光局長イスパンさん、インドネシア・イスラム観光協会（APII）のマストゥールさんなどの協力を得た。

写真5



デザイン担当：パティ（ゆいツールボランティア）

仕様 / 印刷部数：できあがりA5サイズ（3つ折り）フルカラー / 1,000部

配布先：2月のフォーラムで参加者に配布、村ツーリズムに関心がある村などにその都度配布

③ 学生向けエコツアーの実施

【日程】 2017年12月20日（水）～29日（金）

【参加者】 学生5名、社会人3名（男性2人、女性6人）

【スケジュール】（8泊10日）

日にち	内容
12月20日（水）	羽田空港集合、ジャカルタへ。乗り換えてロンボク島へ
12月21日（木）	ごみ埋め立て地見学、「ごみ銀行ってなんだろう？」
12月22日（金）	ランタン村へ。若者たちと村を散策。日本の文化紹介。村に宿泊
12月23日（土）	ココナッツオイル、コーヒーづくり体験、田仕事体験。 ワークショップ① 参加（自己紹介、村のいいところ、気になるところなど）。ロンボクの伝統紹介。村に宿泊
12月24日（日）	ごみに関する聞き取り、 ワークショップ② 参加（村ツーリズムを発展させるためにできること）。お別れの会。村に宿泊
12月25日（月）	ランタン村とお別れ、ギリ・メノ島へ。シュノーケリング（バンガローに宿泊）
12月26日（火）	海の生きものプログラム体験
12月27日（水）	芸術村カウイス・クリサンとNTBマンディリごみ銀行の見学、マングローブ林の見学
12月28日（木）	織物の里でお土産探し、ロンボク島からジャカルタ、羽田空港へ

ワークショップ①

- ・自己紹介
 - ・グループワーク
- 日本人「観光客の視点から見た、村のいいところ・気になるところ（環境面）」
 インドネシア人「観光客を迎えてどんな気持ちか」「観光客に聞いてみたいこと」
 共有
 「ごみについて考えるプログラム」実施

ごみに関する聞き取り

- ごみに関する話し合い&ヒヤリング（ごみ調査の予定だったが雨のため予定変更）
- 話し合った項目
 「どんなごみが捨てられていますか？」
 「ごみがたくさん捨てられている場所は、どんなところですか？」
 「あちこちに捨てられているごみを見て、あなたはどう感じますか？」
 - ヒヤリング項目
 「普段、あなたはどこにごみを捨てますか？」

ワークショップ②

- （マスマス村のハビブさんも参加）
 ハビブさんへの自己紹介（日本の若者、村の若者）
 グループワーク
 日本人「もっとこうしたいところ（環境面）」
 インドネシア人「村ツーリズムを発展させるためのアイデア」
 共有
 ハビブさんから一言

【コメント】

今回は、マタラム市のごみ埋め立て地の見学やマングローブ林の見学など、昨年とは違った訪問先を加えた。また、参加者の中に、英語が堪能な学生が3人ほどいたのと、ランタン村にも英語が通じる若者が複数いたため、昨年度以上にコミュニケーションが深まった。

ツアー全体を通して、ごみの問題や現地の文化・宗教・暮らしについて、参加者たちは十分に感じ、学び、意見交換をした。それ以上に、若者同士（参加者と村の若者、参加者とツアーガイド、参加者同士）の交流が進んだ。

ワークショップ①では、参加者は村のいいところとして「村人のホスピタリティの高さ」や「自然の豊さやそこに暮らす人たちの自然との関係」を居心地よく感じていることを挙げていた。一方で、そこかしこに目につくプラスチックごみの多さに驚き、残念に感じていた。

ごみに関するヒヤリングを通して、村の人もまたごみを見ていい気持ちがないことを知り、ごみのせいでせっかく豊かな自然が壊れてしまうのではないかと心配に感じた。

ワークショップ②では、マスマス村のハビブさん（ロンボクでの村ツーリズムの先駆者）に村の若者たちを紹介し、「村ツーリズムを発展させるためのアイデア」についてグループで話し合い共有した。

参加者たちは、たった3日間の村での滞在がツアー中最も印象に残り、帰国後も村の若者らとSNSを通じた交流が続いている。

写真 6



クカイ・ブルスリごみ銀行見学

写真 7



シウン・グミランごみ銀行見学

写真 8



村の生活体験

写真 9



ワークショップ①

写真 10



ワークショップ②

写真 11



ギリ・メノ島で海プログラム体験

④ 村ツーリズム発展のためのフォーラム開催（2月）

【イベント名】

FORUM ECO TOURISM DAN PEDULI LINGKUNGAN

【日程】

2018年2月8日（木）9:00～14:00 フォーラム、14:00～19:00 見学ツアー

【場所】

NTB州マタラム市サンティカホテル 会議室

【主催】

NPO法人ゆいツール開発工房（ラボ）

【目的】

ロンボクで村ツーリズムを発展させていくために、村ツーリズムとは何か、解決しなければいけないごみ問題、その手段としてのごみ銀行の活動などについて、発表・情報交換をする場を設ける。ごみ銀行が展示を行い、活動をアピールする。マスマス村へ見学ツアーを行うことで、村ツーリズムの事例を学ぶ。

【協力】

- ・ウダヤナごみ銀行
- ・アジ氏（タナ・ベア村）
- ・インドネシア・イスラム観光協会（APII）
- ・西ロンボク観光局

【参加人数】

96人（村ツーリズムに興味を持っている村の村長や観光チームメンバー、旅行関係者、ごみ銀行関係者、ロンボク島日本人会のみなさん、ゆいツールボランティアの若者など）

【配布物】

- ・「村ツーリズム紹介パンフレット」（2017年度作成）
- ・「ごみ銀行紹介パンフレット」（2016年度作成）

【内容】

プログラム

0. ゆいツールあいさつ ゆいツール代表
西ロンボク観光局局長あいさつ Ispan Junaidi, M. Ed
1. ロンボクのごみ問題とごみ銀行の活動について ウダヤナごみ銀行代表
Jeanithia
2. ハラル・ツーリズムについて APII NTB 州 TGH. Fauzan Zakaria, Lc.
3. 村ツーリズムとは マスマス村 Habib
4. ゆいツールの取り組み～タナ・ベア村やランタン村での村ツーリズム～ Tony
昼食（ごみ銀行の展示）
5. ロンボクのいくつかの村ツーリズム観光地について紹介
6. マスマス村へのスタディツアー

写真12



フォーラムの様子

写真13



ウダヤナごみ銀行ティア氏のプレゼン

写真14



参加者

写真15



マスマス村への見学ツアー

【コメント】

村ツーリズムを発展させる目的で、ゆいツール主催で初めてフォーラムを開催した。今年度は、インドネシア・イスラム観光協会（APII）と協働できたことで、お互いのつながりのある人たちを呼んで大規模に開催することができた。

村ツーリズムとは何か、また環境を守るためにプラスチックごみを集めるごみ銀行の取り組みの重要性について、参加者に伝えることができた。

フォーラムには、ランタン村の若者たちや日本人会のみなさんなど、ゆいツールがお世話になっている人たちも参加してくれた。

フォーラムのあと、32人の参加者がマスマス村への見学ツアーに参加した。

今回の催し物は、インドネシアの行政主催のものとも、NGOだけが主催するものとも違って、海外のNGOが、現地の行政やNGOと協働で開催したところに、目新しさや視点の新しさがあつたと思われる。

⑤ プラスチックごみを活用したクラフトづくり講習会（8月、3月）

ウダヤナごみ銀行とBCごみ銀行と協働で、ランタン村（2か所）で講習会を実施した。

8月と3月の参加者はそれぞれ別である。3月の講習会は、12月のツアーを実施した後に開催したため、村人の意識は高かった。どちらもコーディネーターは、ウダヤナごみ銀行（ゆいツール現地スタッフ）が行った。

●2017年8月10日（木）/ランタン村トニーさんの新学校 /20名

講師：ティア（ウダヤナごみ銀行）、タナ・ベア村BCごみ銀行の女性たち

●2018年3月23日（金）/ランタン村オパンさんの家 /20名（3月30日にも実施）

講師：タナ・ベア村BCごみ銀行の女性たち

写真16



8月の講習会の様子（ランタン村）

写真17



写真18



3月1回目の講習会の様子

写真19



3月2回目の講習会の様子

⑥ 東京でのイベント出展（4月、10月）

●アースディ東京2017

【日程】

2017年4月22日（土）10:00～17:00、23日（日）10:00～17:00

【場所】

代々木公園（東京都渋谷区）

【来場者数（会場全体）】

約12万人

【出展内容】

- ・ロンボクの活動紹介パネル「ごみ銀行」「村ツーリズム開発」
- ・その他の活動紹介パネルや体験プログラムツールの紹介など
- ・プラスチックごみから作ったクラフト類

●グローバルフェスタ2017

【日程】

2017年10月1日（土）、2日（日）10:00～17:00

【場所】

お台場 センタープロムナード（東京都江東区）

【来場者数（会場全体）】

約12万人

【出展内容】

（アースディ東京2017と同じ）

写真 20



アースディ東京 2017

写真 21



写真 22



グローバルフェスタ 2017

写真 23



⑦ 学生向けエコツアーの報告会開催（3月）

12月に実施したツアーの成果を発表する場として、報告会を開催した。今回は、参加者自主製作のビデオ上映も行い、ツアーの様子がよりリアルに伝わる様に工夫した。

【日程】

2018年3月10日（土）14:05～16:15

【場所】

ニュー新橋コワーキング（東京都港区新橋 2-16-1 ニュー新橋ビル 305C）

【参加者数】

27人（関係者含む）

【発表者】

今井陽一郎（本当の幸せについて）

篠原優衣（ごみ銀行について）

尾崎優香（村の生活について）

【内容】

1. ゆいツールのロンボク島での活動紹介（山本）
2. ロンボクエコツアーの映像（30分）・・・参加者自主製作
3. ロンボク島で体験したこと、感じたこと 参加者より
4. 休憩（ロンボクのコーヒーと紅茶をサービス）
5. ロンボク島で体験したこと、感じたこと 参加者より
6. お話しタイム（各発表者を囲んでディスカッション）
6. おわりに

【コメント】

- ・自主製作のビデオは、完成度が高い反面表現力に未熟な点が目立ったが、現地での様子がよく伝わる内容ではあった。ゆいツールからは特に手出しをせず、参加者が表現したいものを発表してもらった。

- ・ ツアー参加者自身が、自分の言葉で発表をした点が何よりよかった。
- ・ 会場のキャパと、当日いた人数（30人くらい）がちょうどよかった。
- ・ 終了時間をオーバーしてしまっただが、最後のお話タイムを入れてよかった。少人数で質問したり、感想を言ったりできる場は重要。各グループにファシリテーターを入れて管理させた。発表者自身が上手にファシリテーションできるグループもあってよかった。
- ・ 今回は、ツアー参加者の家族や友人らが多く参加してくれ、ゆいツールの活動を知る機会にもつながりよかった。

写真 24



発表の様子

写真 25



写真 26



グループでのおしゃべりタイム

写真 27



（2）明治学院大学での講義

昨年度に引き続き、明治学院大学での講義でゆいツールのロンボク島での活動を紹介した。

【依頼元】 一般社団法人地球・人間環境フォーラム（天野さん）

【日時】 2017年6月8日（木）16:45～18:15（内1時間）

【場所】 明治学院大学白金キャンパス

【対象】 法学部3、4年生 197名 「世界の環境を考える」という講義の1コマ

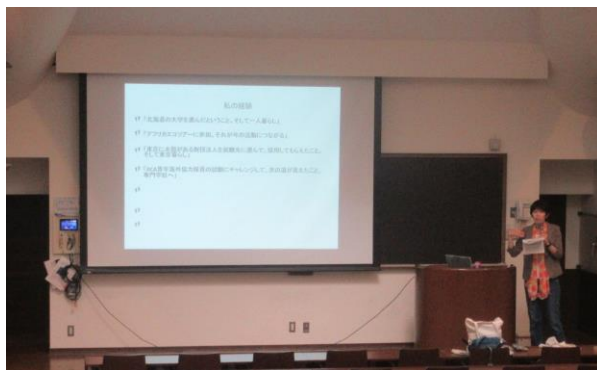
【内容】

1. はじめに（10分）
一歩を踏み出すということ→夢に近づく
私の経験
2. インドネシアのごみ事情、活動のはじまり（3分）
～クイズタイム～
3. ロンボク島での活動紹介（15分）
 - ・プログラムツールの開発
 - ・ごみ銀行のサポート
 - ・廃品を利用したクラフトづくり講習会
 - ・村ツーリズム開発、学生向けエコツアー
 - ・現地の若者の育成
4. エコツアーやボランティアへのお誘い（5分）
5. リアクションペーパー「一番興味深かったこと」

【考察】

- ・学生の特徴は昨年度とあまり変わらず、海外のことにあまり興味がなさそうだった。
- ・リアクションペーパーを見ると、ごみ銀行のシステムや商品に関心を持ったり、現地のごみの状況に驚いたり、中にはエコツアーやボランティア活動に興味を持った学生もいた。
- ・今回は、前年度に製作した「学生向けエコツアー」のパンフレットを配布したにも関わらず、講義後特に問い合わせなどはなかった。

写真 27



講義の様子

写真 28



学生たちの様子

（3） 慶応義塾大の学生との協力

2017年度は、慶応義塾大のアイセック（AISEC：全国規模の学生団体）メンバーから、AISECが行う海外インターンシップへの協力を依頼され、何度かアイセックメンバーと打ち合わせ等を行った。それを受け、10月にゆいツールの活動紹介プログラムを、慶応大学湘南キャンパスで実施した。

○2017年4月22日（土）@アースディ東京 2017 ゆいツールのブースにて

参加者：中島さん

内容：ゆいツールのロンボクでの活動への、インターン参加の可能性について

○2017年5月19日（金）@NPO 法人日本エコツーリズムセンター事務所

参加者：中島さんと村上さん

内容：ゆいツールの体験プログラムの紹介

○2017年5月26日（金）@NPO 法人日本エコツーリズムセンター事務所

参加者：中島さんと田中さん

内容：慶応大でのゆいツール活動紹介プログラムの実施等について

○2017年8月16日（水）@NPO 法人日本エコツーリズムセンター事務所

参加者：中島さんと久保さん

内容：慶応大でのゆいツール活動紹介プログラムの実施等について

○2017年9月28日（木）@NPO 法人日本エコツーリズムセンター事務所

参加者：中島さんと久保さん

内容：10月23日の慶応大湘南キャンパスでのプログラムの打ち合わせ

○ゆいツールの活動紹介プログラム

【日程】2017年10月23日（月）18:15-19:45@慶応大学湘南キャンパス

【参加者】慶応大湘南キャンパスの学生10名ほど

【内容】

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. あいさつとアイスブレイク（アイセック中島さんより）2. 山本のこれまで（ゆいツールを立ち上げるまで）3. ごみについて考えるプログラム体験4. ロンボク島のごみの様子5. ロンボク島エコツアーの紹介 |
|--|

【考察】

・もともとは、ロンボクの活動に学生インターンを送り込みたい、という問い合わせから始まったアイセックの学生とのやり取りだったが、諸条件が合わずゆいツールとしての受け入れはなし、ということになり、その後、アイセック（慶応大学湘南キャンパス）でインドネシアに海外インターンに行く学生への環境教育をやってほしい、という話になり、結局それも希望者なしで実現せず、最終的に10月にゆいツールの活動紹介プログラムを行った。しかしそれも、台風明けの月曜の夜で、多くの学生が大学を休む中に行われ、ほとんど成果はなかった。10月のプログラムには、ボランティアの三枝さんが同行した。

写真 29



5月19日プログラム体験の様子

写真 30



10月23日のプログラムの様子

（4） エコットでの講演（12月）

愛知県豊田市の環境学習施設エコット（eco-T）より依頼があり、下記の日程で講演とワークショップを行った。

【日程】 2017年12月3日（日）13:30～16:30

【内容】

講演会

- ・「インドネシアにおけるプラスチックごみの問題と地元住民との取り組み」
(NPO 法人ゆいツール開発工房^{ラボ} 山本かおり)
- ・「ごみと私たちの生活～生活ごみを半分に！」(五明玲子氏)

ワークショップ

- ・「インドネシアのごみを分別してみよう」&グループワーク「海のプラスチックごみを減らすために」(ゆいツール)
- ・「ごみを減らすには？」(五明さん)

展示

- ・「トランクミュージアム」(JEAN より借用)

【参加者】 60人ほど

【考察】

- ・参加者はほとんどが、70歳以上の高齢者（エコットのボランティアさん）だった。
- ・講演の後、3分の1くらいの方は帰ったようだった。
- ・山本担当のワークショップは、20名程度の参加者がいた。
- ・エコットに、JEAN から「トランクミュージアム」を借りてもらい展示をした。ワークショップ中にも見学する時間を設けた。
- ・ワークショップの時間は40分程度で、あまり深い議論は出来なかったがワークシートを記入してもらった。ワークシートの問いは次の通り。「A 私ができること」「B 自治体や国レベルでできること(日本の場合)」「C 自治体や国レベルでできること(インドネシアなどの後進国の場合)」「D 企業ができること」「E NGO(市民レベル)ができること」以上の中から2つを記入。
- ・えこっとはインタープリター（ボランティア）が70名くらいいるということで、市民によ

て支えられている環境学習施設だと感じた。

- ・もう少し、若い人が参加したくなるようなイベントにしていってよと思った。
- ・展示室には、ゆいツールのメンバーが使っていたストップおんだん館の仕器が移設されていて、機能的には使いやすそうだった。

写真 31



ワークショップの様子

写真 32



講評の様子

(5) ロンボク島エコツアーの受け入れ（2月）

2017年度は、名古屋市立大学曾我ゼミより依頼があり、ゼミ生4人と曾我先生向けに2月にエコツアーを実施した。社会人2名も参加した。12月のツアーと同様、中部ロンボ克蘭タン村に滞在した。ランタン村の若者チーム LANTAN Ecotorism が受け入れし、12月の反省を生かし大きな成長を見せた。

【日程】 2018年2月9日（金）～16日（金）

【参加者】 学生4名、教員1名、社会人2名（男性1人、女性6人）

【スケジュール】（7泊8日）

日にち	内容
2月9日（金）	学生と教員名古屋空港発、社会人2名羽田空港集合、ジャカルタへ。乗り換えてロンボク島へ
2月10日（土）	イスラミックセンター（モスク）見学、クカイ村のごみ銀行訪問 マンディリ・スジャトラごみ銀行見学
2月11日（日）	早朝歩行者天国散歩、ランタン村へ。若者たちと村を散策（結婚行列見学）。日本の文化紹介。村に宿泊
2月12日（月）	伝統菓子づくり体験。 村の若者とワークショップ「発展した先にあるもの」 、ロンボクの伝統紹介。村に宿泊
2月13日（火）	小学校で「ごみについて考えるプログラム」実施、竹細工づくり体験、コーヒーづくり体験、ゲーム大会、お別れの会。村に宿泊
2月14日（水）	ランタン村を出発、西ロンボク環境局でJICA青年海外協力隊員の活動紹介プレゼンと意見交換、マングローブ林の見学
2月15日（木）	ブスック村でヤシ砂糖づくり体験、スカララ村で伝統織物探し
2月16日（金）	クタの海へ、バリに向けて出発（社会人1名のみジャカルタ経由羽田へ）

【考察】

- ・今回、参加者が途中体調を崩したり休息が必要になったりして、全員が活動にフル参加できなかったところが残念ではあったが、アンケートの満足度は高かった。
- ・ワークショップのテーマは、ESDを学んでいる学生に併せて「発展」について考えるものとした。
- ・大学のゼミのツアーだったため、毎日先生と学生でふりかえりをじっくり行っていた。12月のツアーでは、日本人だけでふりかえる機会がなくその時間が欲しかったという参加者の声があったが、今回毎日ふりかえりを行っていて、そのメリット・デメリットを知ることができた。メリット⇒起こったことを日本人だけで共有することで、感じたことや学びを共有できる。デメリット⇒毎回1時間はかかっている休憩時間が短くなったり、村の若者と交流する時間が短くなったりした。日本人だけで話すことで、村にいる臨場感やそれに伴う高揚感がぶつ切りになった。
- ・LANTAN Ecotorismのメンバーは、12月のツアーの反省から学び、自主的、積極的、精力的にゆいツールのエコツアーに協力してくれた。
- ・参加者から村滞在中のよかったところ、改善点などをヒヤリングし、若者チームとホストの村人に伝えた。（ツアー後のフォローアップ）

写真 33



結婚行列に参加

写真 34



伝統菓子づくり体験

写真 35



ゲーム大会

写真 36



JICA 青年海外協力隊員と意見交換

NPO 法人ゆいツール開発工房

〒155-0032

東京都世田谷区代沢 2-19-12

メールアドレス: yuitool@gmail.com

ホームページ: <http://yui-tool.jimdo.com/>

ゆいツールブログ:

<http://blog.goo.ne.jp/yui-tool>

連絡先: 090-4420-6867(代表携帯)